フランス・ストラスブール大学

文教育学部 言語文化学科
仏語圏言語文化コース　3 年
清野真理子

私は本学に入学した当初からフランス留学に興味を持っていました。理由は現地で生きたフランス語を使って学ぶ事に興味を抱いていたためです。また、文学と映画に興味をもっており、その両者を学ぶ事の出来る大学に留学できたらと考え、ストラスブール大学での留学が始まりました。

ストラスブール大学は三つの大学が 2009 年に統合されたもので、イメージ通りキャンパスが大きく、学生も大勢いました。

到着してすぐオリエンテーションの後に授業が始まり、国際交流課の先生や学部の担当の先生、現地の友人等、たくさんの方が履修等の相談に乗ってくださいました。当初の映画と文学の授業を履修する予定は芸術学部（の中の映画のコース）の授業だけで十分ハードだということで実現できませんでしたが、それでも大変興味深い授業を受ける事が出来ました。ストラスブール大学の芸術学部には舞台芸術学科というコースがあり、その中で 1 年の後期から映画、演劇、舞踊のコースに分かれる事になります。私はコースが分かれる前の学部 1 年生たちと同じような授業の履修をしたので、映画のみならず舞踊や演劇についても各国の作品に関して幅広い内容の講義を受ける事が出来ました。

私の受けた授業は大教室での講義が多かったのですが、英語とフランス語の授業は少人数でのディスカッションを中心としたものでした。英語の授業ではディスカッションのテーマが多岐にわたっており、ポップ・カルチャーや若者文化などの軽いものからアメリカやフランスの政治など様々なものがあり、また時には学生同士の文化的背景なども垣間見えるようなこともあり、普段講義形式の授業が多く、授業内では他の学生と意見を交換する機会がほとんどなかったため、この時間は大変貴重だったと思います。

多くの留学生を受け入れていることから、学生同士の交流のための団体や、語学を教え合うサークル等があり、多くの人と知り合う事が出来ます。日本語学科のフランス人と日本人学生の交流も盛んなので、今後ストラスブール大に行かれる皆さんもたくさんの友人に出会えるかと思います。

キャンパスの建物は近代的な作りでキャンパス周辺も路面電車やバスが多く近代的で便利な反面、路面電車で 20 分ほど行くと観光地となっているストラスブール大聖堂やプティット・フランスなど古い伝統的な建物が見えてきます。ストラスブールは古いものと新しいものが共存しているという意味でも大変面白い街だと思います。